

出資団体の概要(出資団体経営評価・診断表 様式①)

【共通】

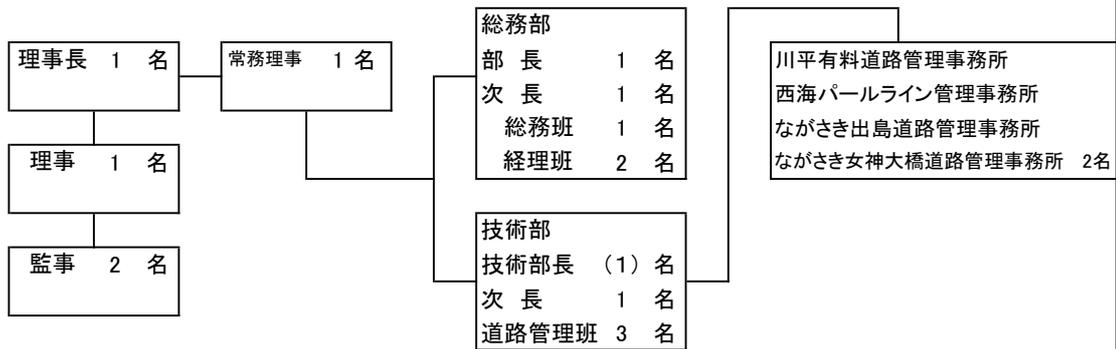
直近の決算日: 平成 27 年 3 月 31 日

1. 団体の概要				
団体名	(特) 長崎県道路公社	設立目的、経緯及び根拠法		
設立年月日	昭和52年2月1日	長崎県の区域及びその周辺の地域において、その通行又は利用について料金を徴収することができる道路の新設、改築、維持、修繕その他の管理を総合的かつ効率的に行うこと等により、この地域の地方的な幹線道路の整備を促進して交通の円滑化を図り、もって住民の福祉の増進と産業経済の発展に寄与することを目的とする。長崎県における有料道路の建設は、昭和25年西海橋、昭和31年雲仙道路、昭和34年島原道路が日本道路公団により着手され、その後県事業として昭和44年平戸大橋、昭和48年国見道路の建設に着手した。しかし、平戸大橋有料道路の路線が、建設途中の昭和50年4月に主要地方道平戸田平線から国道383号に昇格したため、県での有料道路の維持管理が制度上できなくなるということで、今後、有料道路の建設、維持管理及び料金徴収については地方道路公社で行うこととし、平戸大橋有料道路の供用開始前の昭和52年2月1日に長崎県道路公社が設立された。 道路整備特別措置法・地方道路公社法。		
所在地等	〒 850-0035			
	長崎市元船町17番1号			
	TEL (095)823-2600			
	Fax (095)827-3463			
	E-Mail ndk5221@athena.ocn.ne.jp			
県所管課	土木 部 道路建設 課	定款又は寄附行為等に定める事業		
資本金・ 基本金等の額 (千円)	主な出資者	出資額(千円)	比率(%)	有料道路(高速道除く)の新設、改築、維持、修繕、その他の管理、有料駐車場の建設・管理。
	長崎県	6,895,000	100.00	
			0.00	
			0.00	
			0.00	
	その他		0.00	
	総 額	6,895,000	100.00	
ホームページURL	http://nagasaki-dourokousha.or.jp/			

2. 組織・人員の状況(3月31日現在)											
役員 (名)	区分	H24	H25	H26	プロパー	派遣県職員	兼務県職員	県OB	他自治体	民間	その他
	常勤	3	2	2		1		1			
	非常勤	2	3	3						3	
	合 計	5	5	5	0	1	0	1	0	3	0
職員 (名)	H24	H25	H26	正規雇用	派遣 県職員	兼務 県職員	非正規雇用	他自治体	民間	その他	
				うち県OB			うち県OB				
	11	11	11	7	3		1				
1人当たり人件費(年度推移)				H24	H25	H26	平均年齢	賞与月額			
常勤役員報酬年額(千円)				3,076		2,561	2,645	61 歳	-		
プロパー平均給与月額(千円)				365		341	342	54 歳	3.4 月		
1人当たり人件費(H26、年代別)				20代以下	30代	40代	50代	60代以上			
プロパー平均給与月額(千円)						328	368	319			
各年代別プロパー数(名)						2	3	2			
県からの常勤又は非常勤役員	県の役職					団体での役職					区分
	土木部政策監					理事長					常勤
上記役員以外の顧問等						常務理事					常勤
県派遣又は兼務職員	土木部参事					総務部長					派遣
	土木部課長補佐					総務部次長					派遣
	土木部道路建設課課長補佐					技術部次長					兼務

2. 組織・人員の状況(3月31日現在)(続き)

組織図



※(1)は、併任他公社職員を示す

3. 県財政負担の状況(千円)

〈当年度受入額〉		〈当年度末残高〉	
補助金		貸付金残高	
負担金	55,010	損失補償・債務保証残高	4,084,806
委託料	22,437		
貸付金			
損失補償・債務保証額	950,000		
出資金			

4. 事業一覧

事業No.	事業名	主な事業内容	県財政負担の区分
			県財政負担額(千円)
①	川平有料道路	一般国道206号の西彼杵郡時津町井手園交差点と長崎バイパスの川平インターを結ぶ有料道路の維持管理。建設費の償還。	
②	西海パールライン有料道路	長崎市と佐世保市を結ぶ西彼杵道路の一部である有料道路(地域高規格道路)の維持管理。建設費の償還。県が管理する指方バイパス、小迎バイパスの交通管理業務。	委託料
			6,772
③	ながさき出島道路	長崎市内と高速道路の長崎インターを結ぶ有料道路の維持管理。建設費の償還。県が管理する長崎南環状線の夜間の交通管理業務。	委託料
			7,104
④	ながさき女神大橋道路	長崎港で分断された長崎市南部と西部を結ぶ有料道路(愛称:ヴィーナスウイング)の維持管理。建設費の償還。県が管理する長崎南環状線の昼間の交通管理業務	委託料
			8,561

出資団体経営評価・診断表 様式②

【公益法人会計基準適用法人以外用】

直近の決算日： 平成 27 年 3 月 31 日

5. 財務の状況 (単位:千円、%)						
項 目	H24		H25		H26	
	金額	対前年度比	金額	対前年度比	金額	対前年度比
【貸借対照表】						
流動資産(A)	324,638		514,292	158	897,685	175
うち金銭債権額	324,638		514,292	158	897,685	175
うちたな卸資産				-		-
固定資産	25,484,554		25,692,469	101	25,938,279	101
繰延資産				-		-
資産合計(B)	25,809,192		26,206,761	102	26,835,964	102
流動負債(C)	1,792,994		1,762,270	98	2,091,340	119
うち短期借入金	1,640,031		1,471,165	90	1,437,269	98
うち県借入額				-		-
固定負債	17,121,198		17,549,491	103	17,849,624	102
うち長期借入金	3,835,972		3,144,806	82	2,647,536	84
うち県借入額				-		-
うち退職給付引当金	78,674		76,248	97	55,488	73
負債合計	18,914,192		19,311,761	102	19,940,964	103
株主資本	6,895,000		6,895,000	100	6,895,000	100
その他				-		-
利益剰余金				-		-
純資産又は資本合計(D)	6,895,000		6,895,000	100	6,895,000	100
団体債務保証額				-		-
県債務保証又は損失補償額	5,476,003		4,615,972	84	4,084,806	88
【損益計算書】						
売上高(E)	1,822,437		1,983,147	109	1,987,893	100
うち県財政負担額(F)	11,811		13,529	115	22,437	166
売上原価	1,641,643		1,945,864	119	1,950,841	100
うち人件費(G)	12,834		12,450	97	12,541	101
販売費及び一般管理費	139,908		118,220	84	127,818	108
うち人件費(H)	63,132		58,905	93	59,773	101
営業損益	40,886		-80,937	-198	-90,766	112
営業外収益(I)	2,847		2,595	91	58,137	2,240
うち県財政負担額(J)	1,724		1,700	99	55,010	3,236
営業外費用	43,733		32,354	74	23,001	71
経常損益(K)	0		-110,696	-	-55,630	50
特別損益			110,696	-	55,630	50
税引前当期純損益	0		0	-	0	-
法人税等				-		-
当期純損益(L)	0		0	-	0	-
準備金等計上前当期純損益	948,133		1,121,884	118	820,435	73
(会計方針の変更による影響額)						
【事業(セグメント)別】						
	売上高	経常損益	当期純損益	準備金計上前当期純損益		
川平有料道路	902,834			437,378		
西海パールライン有料道路	481,186	-55,630		264,990		
ながさき出島道路	299,410			90,690		
ながさき女神大橋道路	304,463			27,377		
各財務数値の増減理由及び各種引当金の設定状況等						
<p>売上高は、西海パールライン有料道路にアクセスする小迎バイパスの平成25年3月末開通以来、年々交通量が増え売上高が増加している。</p> <p>人件費については、常勤役員を3名中理事1名を民間から起用し非常勤とした、また常務理事については、県OBを起用したことにより、減少している。</p> <p>特別利益については、平成25年度施工の西海パールライン有料道路の気象観測装置費用を固定資産に計上したため発生した。</p> <p>上記理由により、準備金計上前当期純損益は増加している。</p> <p>損失補てん引当金については、収入の10%(川平12%)、償還準備金については、収支差益を引き当てている。</p>						
判定項目	点数	H24 比率	H25 比率	対前年度比	H26 比率	対前年度比 対前々年度比
① 経常損益率(K/E)	-	0.00	-5.58	#DIV/0!	-2.80	50.13 #DIV/0!
② 当期純損益率(L/E)	-	0.00	0.00	#DIV/0!	0.00	#DIV/0! #DIV/0!
③ 純資産又は資本合計比率(D/B)	-	26.72	26.31	98.48	25.69	97.66 96.17
④ 流動比率(A/C)	-	18.11	29.18	161.18	42.92	147.08 237.07
⑤ 県財政負担率((F+J)/(E+I))	-2	0.74	0.77	103.42	3.79	493.56 510.46
⑥ 人件費比率((G+H)/E)	-	4.17	3.60	86.32	3.64	101.10 87.27
点数合計	-2	判定 《 b 》				

【判定】 判定項目ごとに評価基準に基づき採点し、点数合計により判定

a…点数合計が0 b…点数合計が-1から-7 c…点数合計が-8以下

6 中期経営計画等の進捗状況		◎ 達成 ○ 一部達成 × 未達成 ー 未実施							
No.	項目名	H26 実績	計画上の目標値					最終年度 (H40)	達成状況
			H24	H25	H26	H27	H28		
	川平有料道路								
	日平均通行台数(台)	17,077	15,088	15,066	15,045	15,024	15,002	14,737	◎
(目標値設定の根拠・考え方)									
①	九州地方整備局に許可を受けた計画通行台数								
(翌年度に向けての改善事項等)									
実績台数が、目標値に達成しているため、昨年度より、継続し、トンネル照明の更新等に努め、利用者が安全かつ快適に通行できるよう努める。									
No.	項目名	H26 実績	計画上の目標値					最終年度 (H41)	達成状況
			H24	H25	H26	H27	H28		
	西海パールライン有料道路								
	日平均通行台数(台)	7,705	8,049	8,070	8,118	8,156	8,193	8,322	×
(目標値設定の根拠・考え方)									
②	九州地方整備局に許可を受けた計画通行台数								
(翌年度に向けての改善事項等)									
平成25年3月末に小迎バイパス(大串～小迎間)が開通し西海パールラインと結ばれたことにより、一般道(202号)との時間差が約10分間短縮したことや、ハウステンボスのイベント効果もあり通行台数が前年比約102.5%と増加している、引き続き、回数券販売委託先の増等により、利用者増加対策を図り、通行台数を増やすよう努める。									
No.	項目名	H26 実績	計画上の目標値					最終年度 (H45)	達成状況
			H24	H25	H26	H27	H28		
	ながさき出島道路								
	日平均通行台数(台)	7,239	13,400	13,489	13,602	13,732	13,845	14,270	×
(目標値設定の根拠・考え方)									
②	九州地方整備局に許可を受けた計画通行台数								
(翌年度に向けての改善事項等)									
平成23年2月に長崎南環状線の田上～新戸町が開通したことにより、H23は、減少したが、H24から徐々に回復傾向にある、引き続きホームページ・ラジオCM等でPR活動を行い通行台数を増やすよう努める。									
No.	項目名	H26 実績	計画上の目標値					最終年度 (H47)	達成状況
			H24	H25	H26	H27	H28		
	ながさき女神大橋道路								
	日平均通行台数(台)	8,704	6,759	6,808	6,808	6,856	6,886	6,898	◎
(目標値設定の根拠・考え方)									
②	九州地方整備局に許可を受けた計画通行台数								
(翌年度に向けての改善事項等)									
実績通行台数が計画比127.8%と順調であるが、利用者が安全かつ快適に利用できるよう、また、橋梁の長寿命化に繋がるようメンテナンスの強化に努める。									

7. 経営内容及び課題等についての総合評価(団体の自己評価)			
A 概ね良好		B 改善の余地あり	C 一層の努力が必要
総合評価	A	(評価の理由・今後の課題及び改善事項等)	
A 概ね良好		プロパー職員の定年退職後の不補充及び再任用による補充並びに常勤役員を3名のうち1名を民間から起用し、非常勤化するなど、人件費の抑制に取り組んでいる。	
B 改善の余地あり		また、長期借入金の返済は計画通り進んでおり財務は健全である。将来的に料金徴収期間が満了し無料化する際、償還準備金が不足する場合には、損失補てん引当金を活用することにより、県へ出資金を完済することができるよう通行台数の増加対策に取り組んでいる。	
C 一層の努力が必要			

8. 総合評価(県の評価)		
総合評価	B	(評価内容)
A 概ね良好		必要最小限の人員で運営されており、給与についても適正であると思料される。また、財務状況については、収支改善に努めており概ね健全と判断されるが、一部の路線で依然として実績が目標値を下回っているため、目標達成に向けて、今後も改善の余地がある。
B 改善の余地あり		
C 一層の努力が必要		